

対象国の条件:

研修コース番号 :J1804365

案件番号 :1884748

主分野課題 :自然環境保全/その他自然環境保全

副分野課題 :水資源・防災/総合的水資源管理

使用言語 :英語

案件概要

流域内での洪水対策または生態系保全に携わる中央・地方政府または公的専門機関の行政官等が、構造物に頼らない生態学的手法による災害リスクの削減 (EcoDRR) を学ぶことで、森林の多面的な機能を活用した防災対策を考慮した持続的な流域管理手法を習得することにより、対象流域における行動計画案を策定することを目指す。

目標/成果

対象組織/人材

【案件目標】

洪水リスクの増大や生態系劣化への対策やリスクの軽減に取り組んでいる組織が、当該流域において、生態学的手法による災害リスク削減 (EcoDRR) 技術を習得することにより、持続的な流域管理対策を立案、実施できる。

【成果】

単元1: 地球規模での気候変動や開発にともなう、当該流域での様々な災害リスクの増大の危険性を理解できる。
単元2: EcoDRRの概念を理解し、構造物だけによらない生態学的な災害リスク削減の手法を習得できる。
単元3: 流域でのさまざまな災害リスクの軽減に向けた具体的なEcoDRRno手法を立案できる。
単元4: 当該流域において、具体的なEcoDRR手法を用いて、流域全体の持続的な管理計画を立案できる。

【対象組織】

流域内の防災、および森林の多面的な機能の活用または生態系保全に携わる中央・地方政府または公的専門機関。3年間継続して、流域での防災対策または生態系保全を担当する同一機関からの参加が望ましい。

【対象人材】

現場レベルの中堅実務者もしくは当該分野で5年以上の経験がある者。

内 容

課題解決促進型:

【事前活動】 インセプションレポートの作成: 自国の担当流域における災害リスク、生態系劣化の現状について調査する

【本邦研修時】 以下の内容の講義、実習、視察、討論を行う。

- (1) 地球規模の気候変動の現状、それにとまなう災害リスク増大の現状、EcoDRRの基本的概念、ランドスケープエコロジーの基礎、GISの基礎、生態系サービスの概念
- (2) 河畔林によるEcoDRR、山地の森林再生によるEcoDRR、遊水地・分流などによる治水対策とEcoDRR、生態系サービスとEcoDRR、住民参加と合意形成、EcoDRRにおけるGISの活用
- (3) 課題分析、参加型調査手法、キャパシティディベロップメント、アクションプランレポート作成

【事後活動】

配属先における帰国報告会の開催、およびアクションプランの組織内承認

本邦研修期間

2018/6~2018/8

担当課題部

地球環境部

所管国内機関

JICA北海道(帯広)

関係省庁

実施年度

2018~2020

主要協力機関

アークコーポレーション(株)

**特記事項
及び
ホームページ**